

子どものこころの発達研究センター

1 構成員

	平成19年3月31日現在
教授	1人
助教授	0人
講師（うち病院籍）	0人（0人）
助手（うち病院籍）	3人（0人）
医員	0人
研修医	0人
特別研究員	0人
大学院学生（うち他講座から）	0人（0人）
研究生	0人
外国人客員研究員	0人
技術職員（教務職員を含む）	4人
その他（技術補佐員等）	2人
合 計	10人

2 教員の異動状況

森 則夫（センター長）	（平成18年4月1日～現職）
杉原 玄一（特任助手）	（平成18年4月1日～現職）
山本 茂幸（特任助手）	（平成18年4月1日～現職）
宮地 泰士（特任助手）	（平成18年7月1日～現職）
神谷 美里（教務員）	（平成18年4月1日～現職）
藤田知加子（教務員）	（平成18年4月1日～現職）
吉橋 由香（教務員）	（平成18年6月1日～現職）
松本かおり（教務員）	（平成18年11月1日～現職）

3 研究業績

数字は小数2位まで。

	平成18年度
(1) 原著論文数（うち邦文のもの）	13編（5編）
そのインパクトファクターの合計	36.18
(2) 論文形式のプロシーディングズ数	0編
(3) 総説数（うち邦文のもの）	4編（2編）
そのインパクトファクターの合計	0
(4) 著書数（うち邦文のもの）	0編（0編）
(5) 症例報告数（うち邦文のもの）	0編（0編）

そのインパクトファクターの合計	0
-----------------	---

(1) 原著論文 (当該教室所属の者に下線)

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 吉橋由香, 藤田知加子, 川上正浩, 辻井正次: 高機能広汎性発達障害の意味的ネットワーク構造に関する検討: 過活性抑制の枠組みから. 中京大学社会学部紀要 20(1・2):19-31, 2006.
2. 高機能広汎性発達障害児の感情認知処理の自動性に関する研究- 閾下感情プライミング課題を用いた実験的検討-. 小児の精神と神経 46(4):265-274, 2006.
3. 宮地泰士, 金山学, 石川道子: 発音不明瞭を主訴に受診した児における広汎性発達障害の検討, 小児の精神と神経, 46(4), 275-279, 2006.
4. Sugihara G, Hashimoto K, Iwata Y, Nakamura K, Tsujii M, Tsuchiya KJ, Sekine Y, Susuki K, Suda S, Matsuzaki H, Kawai M, Minabe Y, Yagi A, Takai N, Sugiyama T, Mori N.: Decreased serum levels of hepatocyte growth factor in male abults with higt-functioning autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2007 Mar 30;31(2):412-5. Impact factor 2.584
5. Sugihara G, Takei N.: Obsessive compulsive disorder and acute traumatic brain injury.: Acta Psychiatr Scand 114: 295-296, 2006. Impact factor 3.857
6. Sugihara G, Kaminaga T, Sugishita M.: Interindividual uniformity and variety of the "Writing center": A functional MRI study.: *Neuroimage* 32:1837-1849, 2006. Impact factor 5.559

インパクトファクターの小計 [12.00]

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの (学内の共同研究)

1. Sekine Y, Ouchi Y, Takei N, Yoshikawa E, Okada H, Minabe Y, Nakamura K, Suzuki K, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Sugihara G, Mori N.: Perospirone is a new generation antipsychotic: evidence from a positron emission tomography study of serotonin 2 and D2 receptor occupancy in the living human brain. J Clin Psychopharmacol. 2006 Oct;26(5):531-3. Impact factor 4,561 J Clin Psychiat ;63:90-100, 2006. Impact factor 5,533
2. Shinohe A, Hashimoto K, Nakamura K, Tsujii M, Iwata Y, Tsuchiya KJ, Sekine Y, Suda S, Suzuki K, Sugihara G, Matsuzaki H, Minabe Y, Sugiyama T, Kawai M, Iyo M, Takei N, Mori N.: Increased serum levels of glutamate in adult patients with autism. Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2006 Dec 30;30(8):1472-7. Epub 2006 Jul 24. Erratum in: Prog Neuropsychopharmacol Biol Psychiatry. 2007 Mar 30;31(2):590. Impact factor 2,584 · Impact factor 2,584
3. Takei N, Sugihara G.: Diagnostic ambiguity of subthreshold depression: minor depression vs. adjustment disorder with depressive mood. : *Acta Psychiatr Scand* 114: 144, 2006. Impact factor 3,857

インパクトファクターの小計 [19,12]

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

1. 鷺見聡, 宮地泰士, 谷合弘子, 石川道子, 名古屋市西部における広汎性発達障害の有病率—療育センター受診児数からの推定値—, 小児の精神と神経, 46(1), 57-60, 2006.
2. Sumi S, Taniyai H, Miyachi T, Tanemura M: Sibling risk of pervasive developmental disorder estimated by means of an epidemiologic survey in Nagoya, Japan, J Hum Genet, 51, 518-522, 2006. Impact factor 2,205
3. 石崎優子, 宮島祐, 大澤真木子, 林北見, 深井善光, 宮地泰士, 田中英高: 小児神経, 小児心身および小児精神神経学会会員の向精神薬の適正使用に関する意識調査, 日本小児臨床薬理学会雑誌, 19(1), 104-107, 2006.
4. Nishimura K, Nakamura K, A. Anitha, Yamada K, Tsujii M, Iwayama Y, Hattori E, Toyota T, Takei N, Miyachi T, Iwata Y, Suzuki K, Matsuzaki H, Kawai M, Sekine Y, Tsuchiya K, Sugihara G, Suda S, Ouchi Y, Sugiyama T, Yoshikawa T, Mori N: Genetic analyses of the brain-derived neurotrophic factor (BDNF) gene in autism, Biochemical and Biophysical Research Communications, 356, 200-206, 2007. Impact factor 2,855

インパクトファクターの小計 [5.06]

(3) 総 説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

1. 宮地泰士: 発達障害児臨床の実際～広汎性発達障害を中心に～, 明日の臨床, 18(2), 47-53, 2006.
2. 宮地泰士, 金山学: 軽度発達障害に関して相談できる社会資源にはどのような施設がありますか, 小児内科 増刊号 軽度発達障害Q&A, 39(2), 383-385, 2007. 東京医学社
3. Sugihara G, Ouchi Y, Nakamura K, Sekine Y, Mori N. [Advances in neuroimaging research on Asperger syndrome] Nippon Rinsho. 2007 Mar;65(3):449-52. Review. Japanese.
4. Sugihara G, Nakamura K, Sekine Y, Mori N, Ouchi Y. [Asperger syndrome: neuroimaging] Nippon Rinsho. 2007 Mar;65(3):398-400. Review. Japanese.

インパクトファクターの小計 [0.00]

4 特許等の出願状況

	平成18年度
特許取得数 (出願中含む)	1件

1. 出願番号：特願2006-204155号

発明の名称：「自閉症の診断薬」

出願人：国立大学法人 浜松医科大学

発明者：森 則夫, 岩田泰秀, 中村和彦, 杉原玄一, 橋本謙二, 辻井正次

出願日：平成18年7月27日

5 医学研究費取得状況

	平成18年度
(1) 文部科学省科学研究費	1件 (200万円)

(2) 厚生科学研究費	0件 (0万円)
(3) 他政府機関による研究助成	0件 (0万円)
(4) 財団助成金	0件 (0万円)
(5) 受託研究または共同研究	0件 (0万円)
(6) 奨学寄附金その他(民間より)	0件 (0万円)

(1) 文部科学省科学研究費

杉原玄一(代表者) 基盤C, 継続, 200万円, 自閉性障害の病態発生メカニズムに対する神経炎症の関与 - PETとMRSによる検討 -

7 学会活動

	国際学会	国内学会
(1) 特別講演・招待講演回数	0件	0件
(2) シンポジウム発表数	0件	0件
(3) 学会座長回数	0件	0件
(4) 学会開催回数	0件	0件
(5) 学会役員等回数	0件	0件
(6) 一般演題発表数	0件	

8 学術雑誌の編集への貢献

	国内	外国
学術雑誌編集数(レフリース数は除く)	0件	0件

(3) 国内外の英文雑誌のレフリース

Acta Psychiatrica Scandinavica 2回

Schizophrenia Research 1回

Biological Psychiatry 1回

9 共同研究の実施状況

	平成18年度
(1) 国際共同研究	0件
(2) 国内共同研究	0件
(3) 学内共同研究	0件

10 産学共同研究

	平成18年度
産学共同研究	0件

15 新聞、雑誌等による報道

1. 「研究室拝見」読売新聞 2007年2月18日